

書店・図書館の役割と関係

鳥取でシンポ 地域から出版と読書の未来を考える



文学部創立50周年記念「本のまち」の今井書店「本のまち」から出版と読書の未来を考えた。鳥取県は学校図書館が11月6日、鳥取県立図書館、書店が共同で本を通る「本のまち」のシンポジウムを開催した。鳥取県は学校図書館が11月6日、鳥取県立図書館、書店が共同で本を通る「本のまち」のシンポジウムを開催した。鳥取県は学校図書館が11月6日、鳥取県立図書館、書店が共同で本を通る「本のまち」のシンポジウムを開催した。

授受学校の児島陽子氏の計6人が登壇。書店、図書館、読書活動、アクセシビリティなど、それぞれの立場から読書と出版に関する議論がなされた。植村教授は「書店に一般書、図書館に専門書というように伝統的な区分けが行われてきたが、最近ではAmazonの参入や電子書籍の普及によって従来のビジネスモデルが成り立たなくなっている。これからは出版や読書の業界内でもっと協力関係を深め、読者に寄り添った新たなモデルを作っていく必要がある」と語った。

3時間半にわたる長丁場のシンポジウムになったが、来場者からは「多様な立場から専門的な意見を聞くことができ大変有意義だった。今日の内容は一冊の本になるほどだ」との声が聞かれ、充実した内容だった。



文学部 50周年

山田教授 沖縄の高校で出前授業 メディアの役割を解説

文学部50周年記念事業の最後を飾るイベントとして、山田健太文学部教授(言論論)が11月25日、沖縄県那覇市の興南高校(我喜屋優校長)で出前授業を行った。

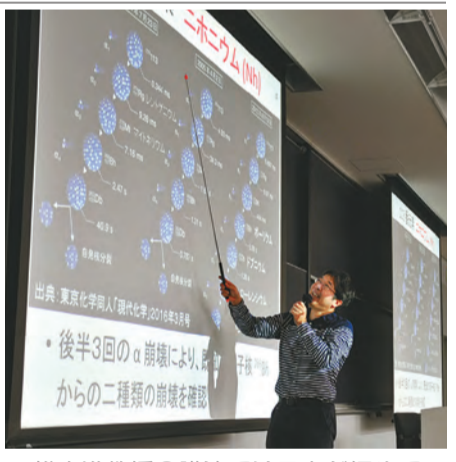
テーマは「マスメディアの役割と力」。山田教授は、フロンティアクラスの2年生37人に全国紙と地元紙の記事の取り上げ方の違いを説明。日本のジャーナリズムの現状や情報を発信する責任について語った。生徒の横に座り笑顔で意見を聞く場面もあり、活発な質問を引き出した。

男子生徒の一人は「メディアの役割について考えるきっかけになった。通常の授業の2倍の講義時間にもかかわらず、生徒たちは終始真剣な表情で聴き入っていた。

この出前授業は沖縄タイムス社が協力。翌日の新聞や地元テレビ局のニュース番組でも授業の様子が紹介され、注目の高さをうかがわれた。

炭素を科学する

公開講演会 基礎から最新研究



松本准教授の講演では日本が初めて命名した元素「二ホニウム」も紹介

生物にとって欠かせない元素である「炭素」をテーマとした自然科学研究所(吉田治弘所長)の公開講演会が11月12日、生田キャンパスで開かれた。市民ら約80人が出席。松本幸三経営学部准教授と大阪大学大学院理学研究科教授の久保孝史氏が、炭素の起源、生物との関わりや、利用法、最新の研究などを伝えた。

炭素は古くから存在が知られ、数千万種の有機化合物(炭素を含む化合物)が発見され、生成されてきた。2010年には新炭素素材グループに関する研究がノーベル物理学賞を受賞するなど、現在も世界中で盛んに研究が行われている。

松本准教授は「炭素に関する基礎知識」と題して講演。宇宙の成り立ちから炭素の発生プロセスを説明し、「安定で多様な結合が形成できる炭素が生成されたおかげで、より大きな元素が誕生している」と論じた。

久保教授の講演テーマは「古くから新しい炭素の科学」。「研究者は必死に酸化炭素は、地球環境に大きな影響を与え、植物の光合成にも用いられる」など炭素の役割を述べ、「あらゆる生物が関わって、炭素を循環させている」と論じた。



小学生や高校生らが挑戦したデジタル灯籠づくり

デジタル灯籠づくり楽しむ 情報科学研公開講座で小学生ら

情報科学研究所(関根純所長)の公開講座「IT×ものづくり入門」が11月5日、生田キャンパスであった。小学生から60歳代まで22人が、工作とプログラミングに挑戦。自分だけのデジタル灯籠を作った。

地域住民らにもものづくりの楽しさを感じてもらおうと開催しており2回目。小学生の親子や教育交流提携校の埼玉県浦和学院高の2、3年生らが参加した。

ネットワーク情報学部の飯田周作教授が講師となり、3色のLED(発光ダイオード)を使って電子回路を組み立てた。さらにパソコンと接続してプログラミング。3色のLEDを順番に点灯させたり、消灯させたり、さまざまなプログラムを書き込んだ。

また、組み合わせることで、好きな色を作るプログラムにも挑戦した。小学4年生の男児は「も

「起業家」テーマに講演 S・リム海外客員教授 全て英語で



講演するリム海外客員教授

新しい炭素化合物、同素体を作り出そうとしている」と豊富な話題、体験談などを交え、科学の面白さを伝えた。

1985年、3人の研究者によって発見された炭素同素体「フラーレン」発見の物語を紹介。「実験、研究は毎日の積み重ね。自然が時たま見せる現象をつかみ取ることができればノーベル賞ももらえる」と、96年にノーベル化学賞を受賞するまでの研究者の取り組みを語った。

講師は経済学部海外客員教授のステイブ・リム氏(ニュージールランド・ワイカト大学)。「アントレプレナー(起業家)」をテーマに12月3日(全5回)が、11月12日から12月3日まで生田キャンパスで開かれた。話題性のあるテーマを講演から質疑応答まで全て英語で展開。留学生や市民に好評だった。

岩倉麻琴さん(専大松戸高3年)は「アントレプレナーというテーマは難しいが、分かりやすい英語なので一生懸命聞いた。来年の留学が楽しみです」と話した。

長田教授が講演

来月、多摩市民館 川崎市多摩区精神保健福祉連絡会議講演会(多摩市民館・1月13日14時開演)で、長田洋和人間科部教授・心理教育相談室長が講演する。

心理教育相談室は多摩区と連携して事業を行っている。講演会はその一環で、子どものメンタルヘルスや親への子育て支援についての講演は昨年度に続き2回目。講師は長田教授ら2人。

入場無料、事前申し込みなし。問い合わせは、多摩区役所高齢・障害課障害者支援係044・9365・3299